

今週（10月16日から10月20日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週初から新しい積み期間に入ったことで、とり急ぐ動きも見られず、週を通して落ち着いたマーケットとなった。日銀当座預金残高は370兆円前後での推移となった。無担保コールO/N物の取引レートは、地銀・証券業態からは▲0.060～▲0.035%での出会い、都銀・信託業態は▲0.080～▲0.060%のビットから散発的な出会いが見られた。そうしたもとの、無担保コールO/N加重平均レートは▲0.04%近辺での推移となった。ターム物に関しては、▲0.040～▲0.030%の、ショートタームでの出会いが散見された。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、19日に2W・8,000億円がオファーされ、結果は1,650億円（期落ち分2,035億円）で札割れとなった。18日には3市場合同BCP訓練の一環として、固定金利方式による全店共通担保資金供給オペ（O/N物）が1,000億円オファーされ、51億円の落札結果となった。

●レポ市場

今週のO/NGCは先週の地合いを継いで、週初から資金調達ニーズが薄くなっており、業者の担保確保のニーズから▲0.10%を大きく下回る水準での出会いが続くこととなった。

週初16日のT/Nは▲0.105～▲0.10%の出会い、S/Nは▲0.15～▲0.12%程度の出会い。翌17日は投資家のオファーが殆ど見えず、業者の玉確保ニーズが厚く入ったことでレートは急激に低下し、▲0.19～▲0.15%での出会いとなった。翌18日はTB1Y物の発行日に重なったことから、業者のビットニーズがやや落ち着き、▲0.12%程度の出会いまで上昇した。19日にはTB3M物と5Yの発行が重なったことから、S/Nは▲0.10%までレートを戻した。週末の20日には短国・国債買入オペがオファーされたことで、再びレートは低下基調となったものの、大きな下落とはならず、▲0.11%前後の出会いとなった。

SCIについては引き続き10Yの330番から340番台でタイトなレートで取引される銘柄が多く見られた。個別銘柄では5Y130～133、10Y336～348、20Y162、30Y51～55などにビットが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、米国の年内利上げ観測が高まり、ドル円のベーススが拡大したことや、償還日が年末を越える3M物のニーズが引き続き強いことから海外勢の買いも期待され、強含みの相場展開となった。

新発の入札は18日に1Y物、19日に3M物の入札が実施された。1Y物の入札では、WI取引において、▲0.165～▲0.16%の水準での出会いが見られる中、結果は平均落札利回▲0.1687%、按分落札利回▲0.1618%と、WI取引を反映した強めの決着となった。3M物の入札では、WI取引において、▲0.181%から▲0.192%まで買い進まれる展開となり、結果は平均落札利回▲0.1924%、按分落札利回▲0.1861%と予想以上に強い結果となった。セカンドリー市場では、ロールニーズ等、海外需要もあってか、3M物・1Y物ともに強含みで推移した。

20日に実施された短国買入オペは、短国金利が低い水準で推移していることやレポ市場の需給がタイトになる局面があったことが考慮されたのか、市場予想を下回る5,000億円でオファーされた。結果は、平均落札利回り較差+0.007%、按分落札利回り較差+0.003%と、買入金額の減額の影響か、小甘い結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、石油・商社・小売業態等の大型発行が見られ、週間償還総額約2,400億円に対し、週間発行総額は約6,000億円程度と発行超となった。ただ、銘柄の広がりにはそれほど見られず、週を通してやや閑散としたマーケットが続いた。a-1格以上の発行レートは、一部の期間の長い銘柄や、発行頻度の低い銘柄で強めの出会いも見られたものの、概ね浅いマイナスから0%近辺での推移となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/16 (月)	21,255.56	0.060	112.00	△ 0.043	△ 0.100	3,700,200
10/17 (火)	21,336.12	0.065	112.19	△ 0.043	△ 0.162	3,705,800
10/18 (水)	21,363.05	0.065	112.21	△ 0.041	△ 0.109	3,718,000
10/19 (木)	21,448.52	0.060	113.00	△ 0.042	△ 0.098	3,708,400
10/20 (金)	21,457.64	0.070	113.17	△ 0.041	△ 0.095	3,701,300

来週（10月23日から10月27日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
10/23 (月)	8月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)			
10/24 (火)		流動性供給 4,000億円 10/26発行		
10/25 (水)	月例経済報告 (内閣府)	交付税借入 10,500億円 11/2借入		9月の米新築一戸建て販売件数 9月の米耐久財新規受注 7-9月期の英GDP速報値
10/26 (木)	9月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	TB3M 44,000億円 10/30発行	2Y 22,000億円 11/15発行	ECB定例理事会(金融政策発表)
10/27 (金)	10月都区部・9月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)			7-9月期の米GDP速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/23 (月)	▲ 100	▲ 22,400	▲ 22,500	全店共通 CP買入 社債買入 国債補完	▲ 2,000 ▲ 100 ▲ 100 1,500	1,600	900	▲ 21,600	TB3M発行▲44000償還41500 5Y発行▲22000
10/24 (火)	▲ 1,000	2,000	1,000	国債買入 短国買入		9,900 5,000	14,900	15,900	
10/25 (水)	▲ 1,000	2,000	1,000	社債買入		1,000	1,000	2,000	
10/26 (木)	▲ 2,000	▲ 3,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	交付税借入▲10500期日10500 流動性供給▲4000
10/27 (金)	▲ 2,000	1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
週間合計	▲ 6,100	▲ 20,400	▲ 26,500	—	▲ 700	17,500	16,800	▲ 9,700	

10/23は日銀予想、10/24以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、23日にTB3M物と5Y物の発行があり、大幅な不足日となる見込み。無担保コールO/N加重平均レートは引き続き▲0.04%前後で横ばいの推移が続くと予想する。

レボ市場は、引き続きオファーサイドのニーズが薄いと見られることから、▲0.10%からやや下の水準での引合いが中心になると予想される。

短国市場は、26日に3M物の入札が実施予定となっている。衆院選の結果や日銀オペ、海外需要の動向が注目される。

CP市場は、月末に向けて発行が活発になることが期待される。26日にはCP等買入オペが3,000億円で実施されることが予定されており、落札水準が注目される。

主要なイベントとしては、国内では27日に9月の全国CPIの公表、海外では25日に7-9月期の英GDP速報値、26日にECB定例理事会、27日7-9月期の米GDP速報値が挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。